

要小だより

第12号

要小学校発行
発行責任者 小島 正

平25. 11. 6

要小のめざす児童

思いやりのある子
集中して学ぶ子

元気な返事や挨拶のできる子

いばらき教育の日を迎えて！

茨城県では、11月1日を「いばらき教育の日」、11月を「いばらき教育月間」と定めています。そして、県内の公立の幼稚園・小中学校・高等学校などで、さわやかマナーアップ運動としての「あいさつ運動」や「学校公開」などが行われています。

要小学校では、朝のあいさつ運動、授業公開、3年生親子給食、母親文庫委員さんによる読み聞かせ、教育講演会が行われました。あいさつ運動は、交通安全母の会とPTA本部役員の皆さんの協力をいただきました。授業公開は、1時間目から5時間目まで行われ、3～4校時には1年生が「出前ミルク教室」、5・6年生が「青竹ご飯づくり」を行いました。



5・6年生「青竹ご飯づくり」の様子



1年生「出前ミルク教室」の様子

笹沼氏の講演内容から！

1日（金）の午後2時30分から、音楽室で教育講演会が行われました。講師は、こどもの森保育園園長の笹沼卓夫氏です。講演は、「子供がこどもに還る子育てを」と題して、塾を経営しながら山の木を1年間かけて切った保育園創設時の苦労や子どもを見ているようでしっかりみていないこと、高校受験に失敗した長男の塾通いのことなどをユーモアたっぷりに話していただきました。しかし、大切なことは、聞いている人の心にしっかり伝わるお話でした。

私が特に印象に残った言葉は、「学校の勉強なんかはすぐ忘れてしまう。しかし、星空を眺めながら寒い中を自転車をこいだことは、ずっと忘れない」という言葉でした。この講演を聞いて、忘れかけていた子育てで大切なことを思い出した気がします。

